＜原著論文＞←資料の種類を記入する。　MS明朝11pt

**メインタイトル←MSゴシック12pt太字**

**―サブタイトル―←MSゴシック11pt太字**

実践太郎１）・実践花子２）・教育太郎３）←著者名はMS明朝11ptです。

横に併記1/4角で番号をつけてください。

1）東京実践大学教育学部←所属機関MS明朝11pt縦に併記します。

2）実践学研究センター，教育実践研究所　←2つ所属がある場合の例

3）東京都実践中学校・高等学校

英文タイトル←Century10.5pt

―英文サブタイトル―←Century10.5pt

英語著者名（Century10.5ｐ）←1/4角で番号をつけて横併記

英語所属機関←上記のように縦に併記，Century10.5pt

キーワード：教育，実践，研究　←MS明朝10.5pt，3～6語

KEYWORDS：education, practice, research ←Century10.5pt

**抄録←**MSゴシック10.5pt太字

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□←抄録は，400字程度で1段落にまとめます（MS明朝，10.5pt）。引用文献は記述しません。

Abstract←Century 10.5pt，

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・英文タイトル，サブタイトル，アブストラクトは著者責任でネイティブの校閲を受けたものを掲載してください（ただし，アブストラクトはそれ自体を省略することができます）。

1. **はじめに（問題と目的）**

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□（見出し，小見出し等はMSゴシック11ptの太字，「はじめに（問題と目的）」から「おわりに（まとめ）」も含めて番号をつけます）

・本文は，MS明朝10.5ptで記述してください。1行の文字数は40字に設定されています。

・フォーマットの設定は変更しないでください。

・本文は「である」調とし，常用漢字，現代仮名づかいにより，数字は算用数字を使用し

てください（半角MS明朝）。

・図表は本文中に直接挿入してください。表のタイトルは上に，図のタイトルは下にそれぞれ図表番号とそのキャプションもつけてください。写真は図の扱いになります。すべての図表や写真は十分に判読可能な大きさ，解像度にしてください。

・読点は「，」句点は「。」を用いてください。

・註と引用文献は分けて文末にまとめて記述してください。

（本文中の引用について）

・文中の場合：「森山・山口（2018）は～」。

・文末の場合：「～（森山・山口，2018）」。

・複数の引用の場合は，セミコロンで区切ります「森山，2018；山口，2023」。

・本文中の同一箇所で複数の文献を引用するときには，文末の同じ括弧内に著者名のアルファベット順に並べてそれらをカンマで区切り，また同一著者については単著を優先し，刊行年順に並べてそれらをカンマで区切ります「～（山口他，2023；渡辺，2023；渡辺・原田，2018）」。

・同一筆者で，同一年に刊行された文献がいくつかある場合，発行年のあとにアルファベット小文字a，b…を付して区別します「原田，2024a；原田2024b」。

・異なる筆者で，同一姓，同一年の文献引用があり，混同の恐れのある場合，日本語文献であれば第1筆者の名を，外国語文献であればイニシャルを添えます「～（山口　裕，2023；山口豊一，2023）」／「～（H.Yamaguchi, 2023 ; T.Yamaguchi,2023）」。

・著者が2名の共著の場合は，引用のたびごとに両著者名を書きます。

・著者が3人以上の場合は，初出の際から，第1著者名以外は「ら」または「他（ほか）」や“et al.”などをつけます。論文末の引用文献には全員の氏名を書いてください（但し，教科書のように執筆者が多い場合は省略が可能です）。

・複数著者の論文を「ら」または「他（ほか）」や“et al.”表記にした結果，同じ省略表記の者が複数出てきてしまう場合は，論文間の区別がつくまで著者名を書きます「森山・山口，相場他（2013）～」，「～（森山・山口・滝沢他，2013）」。

・省略した結果，最後の著者だけが異なる場合は，「ら」または「他（ほか）」，“et al.”とせず，最後の著者まで書きます。

・翻訳書を引用する場合は，原著者名とその刊行年を最初に引用し，その後に翻訳書の翻訳者名とその刊行年を括弧に入れ「Caplan（1964 新福監訳1970）～」とし，「Caplan（1964）」あるいは「Caplan（1970）」とはしません。括弧内に文献を引用する場合は，「～（Caplan, 1964 新福監訳 1970）。」となります。

**２．方法**

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・人を対象とする研究の場合は，方法部分で倫理的配慮について言及してください。例えば，所属機関の倫理審査を受けた（倫理委員会の名称や承認番号），または所属長の許可を得て実践を行った等に加え，具体的にどのような配慮を行ったのかについても記述してください。

**２．１　小見出しタイトル**

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・小見出しは新たな番号を追加します。

**２．１．１　小見出しタイトル←**MSゴシック11pt太字　□□□□□□□□□□□□□□□□□←改行せずに，小見出しタイトルの後，一文字分空けてから，本文を記述します。

・さらに小見出しを追加する場合は，番号を追加して下さい。

**３．結果**

**３．１　小見出しタイトル**

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・小見出しは新たな番号を追加します。

**３．１．１　小見出しタイトル**　□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・さらに小見出しを追加する場合は，番号を追加して下さい。

**４．おわりに（まとめ）**

**４．１　小見出しタイトル**

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・小見出しは新たな番号を追加します。

**４．１．１　小見出しタイトル**　□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

・さらに小見出しを追加する場合は，番号を追加して下さい。

**付記**

・国や自治体等から受けた助成金がある場合は，付記に掲載してください。

・著者全員について，研究内容と関係がある利益相反状態を記してください。

（利益相反のある場合）

・本研究は資金の提供を〔企業名〕から受けた（〔〕内に該当の名称を記し〔〕は削除）。

　・〔該当する著者名〕らは，〔企業名〕から報酬を受理している。

　・本研究は，〔該当する著者名〕が所属する〔企業名〕の助成を受けている。

（利益相反のない場合）

　・本研究（実践等）に関して，開示すべき利益相反事項はない（利益相反は存在しない）旨，記してください。

・口頭発表，学会等の予稿集，学位論文等は，加筆・再構成して投稿した場合は，その関連性を示してください。

（記述例）

本研究は JSPS 科研費 JP18K03075 の助成を受けたものです。また，本実践報告に関して，開示すべき利益相反関連事項はありません。なお，論文の記述内容は，2023年12月の教育実践学会での口頭発表の内容に加筆・修正したものです。

**謝辞**

・オーサーシップを満たさないが研究に貢献があった者（調査や実験への協力者や，論文執筆にあたり助言を受けた指導者等）への実質的な謝辞を記してください。

（記述例）

本実践にあたり，調査を快諾しご協力いただきました高等学校の関係者の皆様に深く感 謝申し上げます。

**註**

・本文中の番号に対応して注釈を述べてください。URLからの引用は，引用文献に入れて下さい。

**引用文献**

・引用文献は，原則としてAPAスタイルに準拠し，日本語文献と外国語文献を分けず，共著の場合も，第1筆者の姓のアルファベット順に記載します。同姓の筆者がいる場合は，名のアルファベット順となります。

・同一の筆者が，単独で発表している文献と，その著者が第1筆者として名を連ねている共著の文献がある場合には，単著を先にし，次に共著を並べます。また，第1筆者が同一で，第2筆者が異なるときは，刊行年ではなく，第2筆者の姓のアルファベット順に並べます。第3筆者以降も同様となります。

・同一筆者の，あるいは同一配列の共著の文献がいくつかある場合には，早い刊行年のものから順に並べます。同一年に刊行された文献がいくつかある，あるいは，本文への引用の際の省略表記が同一となる場合，刊行年のあとに，文献名アルファベット順で，アルファベット小文字a，b…を付して区別してください。

（学術雑誌の場合）

・姓か名のいずれかが1文字の著者の場合には，1文字空けてください。

・日本語の場合：年号の（カッコ）は全角です。（）後にピリオドを入れてください。年号は半角MS明朝です。巻または号数は太字にしてください。

・引用が複数行にわたる場合，2行目以降は全角1文字分を下げてください（ぶら下げインデント処理1文字を行ってください）。

（記述例）

森山賢一・伊藤　健（2013）．問題解決における地域学習の授業の開発，教育実践学研究，**17**，43–­46．

・欧文の場合，すべて半角Centuryです。雑誌名は名詞の頭を大文字にし，イタリック体（斜字体）で表記します。巻または号数は太字にしてください。ページ数はエンダッシュでつないでください。

・著者名は，姓を先に書き，カンマをおき，ファースト・ネーム，ミドル・ネームのイニシャルの順で書きます。イニシャルのあとにはピリオドを付けます。同姓でイニシャルも同じ筆者があるときは，名も略さずに書きます。著者名の表記法は，原著者のそれに従ってください。

（記述例）

Christian, T. G. & Mary, A. S. (2016). Relationships among positive emotions, coping, resilience and mental health. *Stress and Health,* **32**, 145–­156.

（書籍の場合）

・日本語の場合：書籍名のあとに，出版社，出版社の所在地，全ページ数または引用したページを書いてください。

（記述例）

文部科学省（2019）．高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説理科編，実教出版，370p.（全ページ数を記す場合）

上田誠也ら52名（1993）．新しい科学2分野下（平成4年検定済教科書中学校理科用），東京書籍，95–­102．（引用したページ数を記す場合）←教科書のように人数が多い場合は省略することができます。

原田恵理子（2013）．高校生のためのソーシャルスキル教育，ナカニシヤ出版，304p．（単著の場合）

原田恵理子 (2013)．スクールカウンセラーの役割　渡辺弥生・小林朋子 (編著) 10代を育てるソーシャルスキル教育（改訂版）―感情の理解やコントロールに焦点を当てて―，北樹出版，2–­70.（分担執筆の特定の章を引用した場合）

※出版場所は書いても書かなくてもよいものとします。

・欧文の場合：すべて半角Centuryです。書籍名は冒頭と固有名詞を大文字とし，イタリック体（斜字体）で表記します。

（記述例）

Yeats, R. S., Sieh, K., & Allen, C. R. (1997). *The Geology of Earthquakes*. Oxford University Press, 568p.

※出版場所は書いても書かなくてもよいものとします。

（オンラインから引用した場合）

・引用する際には，必ずURLから元の文献にリンクが可能であることを確認の上，確認を行った日を閲覧日とし，URLのあとに閲覧日を記してください。

・本文中に直接URLアドレスを載せることはしないでください。

（記述例）

文部科学省（2018）．学校における働き方改革について，Retrieved from https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/hatarakikata/index.htm（2023年4月10日閲覧）